

8月の窓

先日のテレビで、「天の川をみよう」という番組がありました。夏になると天の川はよく話題になりますが、親子で天の川をさがすもので、スマホのアプリケーションを使うとすぐわかるというものでした。私は残念ながら、よほど環境の整ったところでないと、みつけることができません。天の川は夏に限らず一年中見ることができるそうですが、俳句では秋の季語になっています。ある俳句の本には、「秋になると大気が澄み始め天の川がよく見えるようになるから」とありました。

天の川は、七夕伝説の舞台でもあります。天の川の兩岸にいる織姫と彦星が、年に一度だけ逢うことができる夜ということになります。七夕は7月7日と言われていますが、実は旧暦のことで、旧暦の7月7日は太陽暦の8月上旬にあたり、二十四節気の立秋はその前後になります。したがって、織姫と彦星が逢える頃は、暦の上では秋ということで、七夕も秋の季語になっています。芭蕉も次の句を詠んでいます。

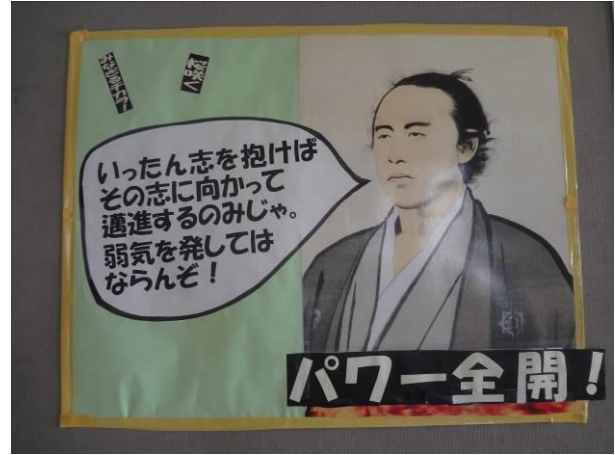
荒海や 佐渡によこたふ 天の河……………芭蕉

七夕や 秋を定むる 夜のはじめ……………芭蕉

最初の句は、「奥の細道」で山形から新潟に入った時に詠んだものとして有名ですが、次の句は、京都の門人の家で詠まれたものです。芭蕉は「夜のはじめ」とするか「はじめの夜」とするかで迷ったそうですが、七夕を境に夏から秋になることから、秋の初めの夜と詠んだものだそうです。

今年は8月7日が立秋ですが、山形は連日暑い日が続いています。昨年「8月の窓」で、本校の「夏の陣」のことを紹介しました。多くの3年生が、夏季休業中も登校して行っている自主的な学習を、本校では「夏の陣」と呼んでいます。以前は、北側廊下で多くの3年生が勉強していたけど、今は3年生の教室にエアコンが入って、廊下で勉強する生徒が少なくなったことを書きましたが、ある卒業生から「まだ廊下で勉強している生徒もいるのか」と懐かしい言葉をいただきました。

今年も3年生の教室を回ってみると、毎日2～3人の生徒が廊下で勉強しています。最初の写真がそれですが、2名の生徒が見えるでしょうか。写真では見えませんが、これとは別に、数人が廊下に机を出して勉強しているグループもいます。もう1枚の写真は、廊下に掲示している3年の担任団からの檄文で、これも恒例となっています。6月に最初の檄文が掲示され、今回は2回目となります。これからあと2～3回掲示されると思います。



7月9日からの集中豪雨と洪水は、県内にも大きな災害をもたらしました。被害のあった皆さまに、お見舞い申し上げます。昨年に続いての災害となった南陽市の被害は甚大なものでしたが、私は10日から11日にかけて仙台出張だったため、山形に戻ってから被害の大きさを知ることになりました。特に赤湯地区の被害が大きかったことから、12日（土）に赤湯在住の知人宅を訪問したところ、その家は少し高いところにあつたため大きな被害はなかったとのことでした。しかし、道路や駐車場にはまだ泥が残っていました。南陽市北部の吉野地区や金山地区でも被害が大きかったとのことでしたが、小滝から吉野に向かう途中の道路では、ガードレールが写真のように大きく曲がっていました。このあたりの道路は、昨年も冠水したのですが、ガードレールが曲がることはありませんでした。もう1枚の写真は金山地区の橋で、完全に崩壊していました。



赤湯地区に設置された「南陽市豪雨災害ボランティアセンター」では、8月9日までの予定で、被災ごみ、土砂の撤去、家財の運びだし等の生活復旧支援のボランティアを募集していましたが、予定より早く8月3日に活動最終日を迎えることになりました。私も7月下旬の日曜日に行ってまいりましたが、県外からも団体・個人含め多くのボランティアの方が来てくださいました。高校生も、置賜だけでなく

山形市内の高校からも休みを利用して参加し、地元の人たちからも感謝されていると聞いております。

次に、7月の本校の様子を紹介します。

7月11日、山形テルサホールで音楽部の定期演奏会がありました。4名の3年生が中心となって部をよくまとめ、素晴らしい定演となりました。最初の写真は、第一部で難しいラテン語の曲を歌っているところ、次の写真は、第二部で現代の曲を衣装も変えて歌っているところです。



7月11日から18日まで、遊学館1階のギャラリーで書道部校外展が開催されました。単独での校外展は初めてとのことでしたが、遊学館に入ってすぐ左のギャラリーということから、多くの人たちに見ていただくことができました。校外展終了後は、同じ作品を本校中央廊下に展示して、校外展を見ることができなかった生徒にも見てもらうことになりました。写真は、遊学館での校外展です。



月が改まった8月1日、やまぎんホール（山形県民会館）で、全日本吹奏楽コンクール山形県大会がありました。7月の地区大会を勝ち抜いた本校吹奏楽部は、

高校の部の最初に演奏しました。課題曲として「勇気のトビラ」を、自由曲として「ミスサイゴン」の序曲等を演奏してくれました。写真は、素晴らしい演奏を終え、ほっとしている部員たちです。



毎年7月下旬から8月にかけて、文化部と運動部の全国規模の大会が開催されますが、茨城県で開催された全国高等学校総合文化祭には、本校から将棋、囲碁、新聞、文芸そして自然科学の5つの部門に出場してまいりました。また、東京で開催されるNHK杯全国放送コンテストでは、アナウンスとラジオドキュメントの2つの部門に出場しました。

南関東で開催されている全国高等学校総合体育大会（インターハイ）には、「7月の窓」でも紹介したように、本校のフェンシング部が出場してきました。神奈川県藤沢市が会場で、25年ぶりの出場となった男子団体と、個人では、男子フルーレ、エペ、サーブル、女子エペ及びサーブルの5種目に出場しました。男子団体は、惜しくも2対5で敗れましたが、個人に出場した5種目のうち4種目で予選のリーグを勝ち上がり、次のトーナメントに進出することができました。中でも、男子サーブルに出場した小林潤一君は、ベスト8まで勝ち上がり、ベスト4をかけた試合で13対15で惜敗しました。1対8とリードされながらも13対13まで追いつき、最後はあと一步及びみせんでしたが、見事な試合を見せてくれました。最初の写真は、会場入り口に掲示される勝ち上がり表のベスト8の選手で、次の写真は、7位入賞の賞状を手にする小林選手と監督の先生です。

平成26年度全国高等学校総合体育大会
第60回全国高等学校フェンシング選手権大会
個人対抗 男子サーブル 決勝トーナメント

都道府県	学校名	氏名	
東京都	帝京	梶野 剣斗	A
山口県	岩国工	吉井 想	B
愛知県	愛工大名電	島田 翔大	C
岐阜県	羽島北	山北 格也	D
神奈川県	法政二	茂木 雄大	E
埼玉県	埼玉栄	高澤 和樹	F
山形県	山形東	小林 潤一	G
岡山県	玉野光南	青路 恒幸	H

3・4



最後に、今月は洗心庵を紹介します。洗心庵は遊学館から東へ歩いて2～3分のところにあり、本校からも5分くらいで行けるところにあります。

洗心庵は、民間から寄贈された土地と建物を修復整備した庭園と文化学習施設で、「5月の窓」で紹介した遊学館に入っている「山形県生涯学習センター」の分館となっています。パンフレットには、「庭園は、ホテルオークラなどの庭園を作庭した名造園家岩城亘太郎が手掛け、自ら東北一と称した大変見応えのある庭が再現されている」とありました。去年のオープニング・セレモニーに案内をいただき私も出席したのですが、今回ゆっくり見学させていただきました。ボランティアガイドの説明も詳しく、パンフレットに書いていないことも教えていただきました。山形市の中心部付近に、このようなぜいたくな庭を持つ施設があるのは、驚きでもあります。多目的ホールには使用料がかかりますが、見学は無料ですので、時間があつたら立ち寄ってみてはいかがでしょうか。写真は庭園と七輪多層塔です。七輪多層塔には、「鎌倉にある源頼朝の供養塔を模したもの」と説明がありました。

